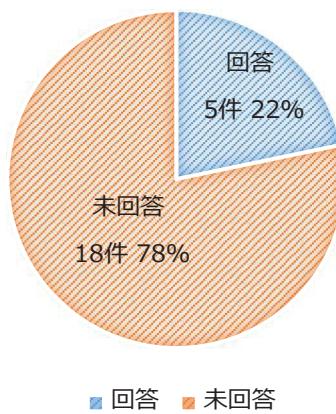


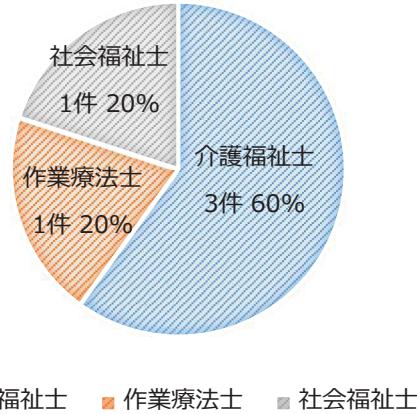
【9通所介護事業所】

回答者について

■調査数及び回答率



■職種



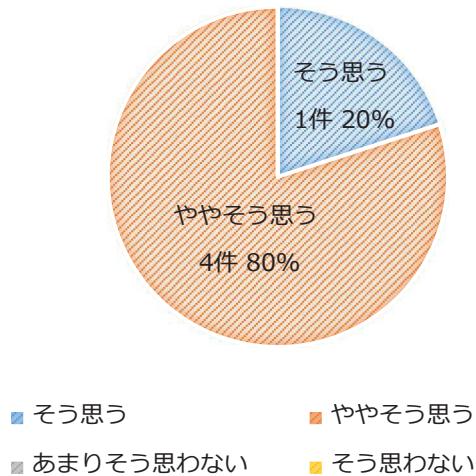
■ここ3年程度の多職種や他機関連携の図りやすさ

ここ3年程度の多職種や他機関連携が図りやすくなりましたかの問い合わせに、「そう思う」「ややそう思う」が100%となっている。

理由としては、

- ・祝日や祭日でのケアマネや他事業所への連絡は気を遣う。
- ・多職種の連携に対する意識の向上。また、そうせざるを得ない現代背景にある。
- ・コロナの流行で積極的な交流が出来ていなかつたが、徐々に緩和されているので社会情勢等を見ながら柔軟に対応していきたい。
- ・上球磨連絡協議会の参加で他事業所とも交流が図れている。通所だけの協議会があっても良い。
- ・多職種連携の研修会などを通じて、各専門職の意識の向上を感じる。

他事業所や医療関係からの資料の受け取り、サービス担当者会議での情報共有が以前よりスムーズに行えている。と回答している。



4つの場面について

■「日常の療養支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・利用時に診察して欲しい箇所を発見しても、受診時に上手く伝わらない。現在は連絡帳を活用し、受診時に持参してもらい、普段のバイタル等を見てもらっている。また、気になる事があれば記帳し返答を貰ったこともあった。
- ・受診時の状況が不明。受診結果について知りたい。本人からの情報だけでは不十分。受診日の把握、その内容について医療機関への問い合わせ。

■「入退院支援」の連携で感じている困難さと解決策

- ・退院後、以前の状態との変化が分からぬ。退院時カンファになるべく参加し生の情報を集める。

■「急変時の対応」の連携で感じている困難さと解決策

- ・家族へ連絡がつかない。(2)
 - 日中連絡のとりやすい番号を再度家族へ確認する。
 - 事前の情報共有と、医療機関へのスムーズな連携の為に家族に連絡が取れない場合どうするかを必ず決めてもらう。
- ・状態の変化を見逃さないことが大切。変化が著しいときは気づきやすいが、そうでない時は、気づかないことも考えられる。利用者に教えてもらうこともあり、常時状態把握は困難。看護、介護共に日頃の知識・意識の向上意欲が必要。意識の低い環境にいると各スタッフが影響を受ける。知識が向上すると急変時の対応も判断でき、意識が向上すると各利用者の変化にも気づきやすい。
- ・急変時は救急搬送を主に行っており、主治医に連絡する事はなかった。関係機関との関係を常に取つておくことが大切。

■今後、より連携を深めていきたい職種

「歯科医師」が4件と最も多く、次いで、「薬剤師」「看護師」「ケアマネジャー」が3件となっている。



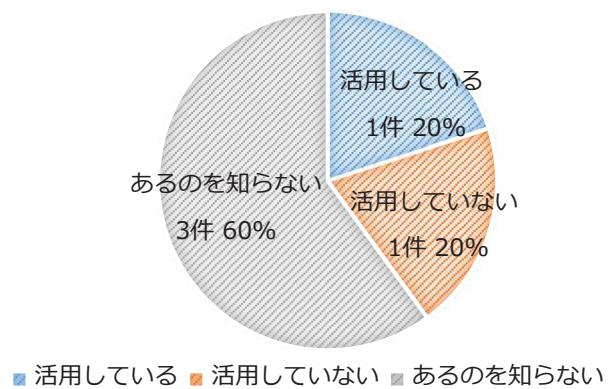
- ・医師.歯科医師.薬剤師.看護師.管理栄養士・栄養士.理学療法士.作業療法士.言語聴覚士.ケアマネジャー.訪問介護員：病状や薬情の他に、食事制限が必要な方もいるのでより連携がとれたら、更にサービス向上にもつながる。
- ・歯科医師：口腔機能の向上に関して重要性を感じている。
- ・ケアマネジャー.介護福祉士.作業療法士.理学療法士.管理栄養士・栄養士.歯科衛生士.看護師.医師.歯科医師.薬剤師.社会福祉士.精神保健福祉士.訪問介護員.言語聴覚士.保健師：多くの職種の意見を参考に自分たちの見解を拡大していきたい。研修等を依頼できれば事業所のレベルアップにもつながる。
- ・歯科医師.薬剤師：口腔機能、服薬に関しての連携が、利用者に対して必要だと考える。
- ・看護師.ケアマネジャー.その他（介護職）：なぜ設問に現場で直接介護にあたる介護職の欄が無いのか不明。

人吉球磨在宅医療介護連携推進事業のホームページ「だんだんなんあネット」について

■「だんだんなんあネット」の活用状況

だんだんなんあネットが「あるのを知らない」が60%と最も多く、次いで「活用していない」が20%と、通所介護事業所では全く活用していないことが分かった。

活用していない理由としては、シートをダウンロードした後、更新がなかった。と回答している。

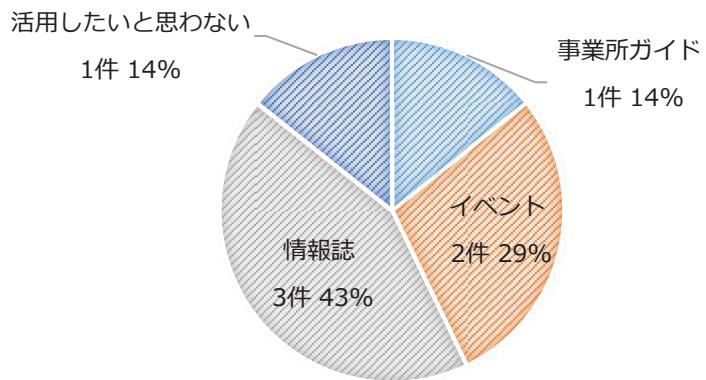


■活用しているページ



■事業所ガイド ■情報誌 ■イベント ■お問い合わせ

■今後活用したいと思うページ



■事業所ガイド ■イベント ■情報誌 ■お問い合わせ ■活用したいと思わない

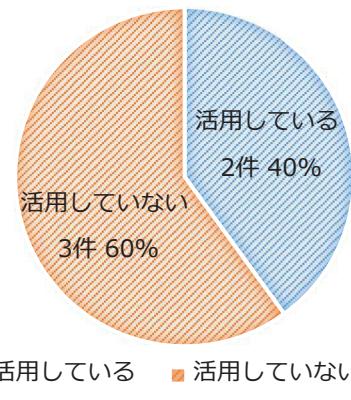
■載せてほしい情報

- ・ホームページ上は簡潔に振り分けてあり、とても分かりやすい。イベントも見やすく掲載してあるので、今後活用したい。
- ・多職種が顔合わせできる研修の紹介など。
- ・具体的にどのような問題に対応しようとしているのか分からぬ。誰に向けてのホームページなのか。こういうことに困っていませんか、こういった事例はありませんか、その場合に何を行い、どんな問題が解決できます。というのが「住み慣れた我が家での医療・介護の実現を目指す連携事業」の一言で分かるのか。また、文字が小さくてせっかくの事業所情報も読みにくい。

医療と介護の情報共有シートについて

■「医療と介護の情報共有シート」の活用状況

医療と介護の情報共有シートを「活用していない」が60%と最も多く、次いで「活用している」が40%と、通所介護事業所ではほとんど活用していないことが分かった。



■シートを活用して良かった点

- ・食事形態や禁忌食を早めに共有できる点や病状に対するリハビリや活動の範囲可能も分かる。
- ・見やすい。

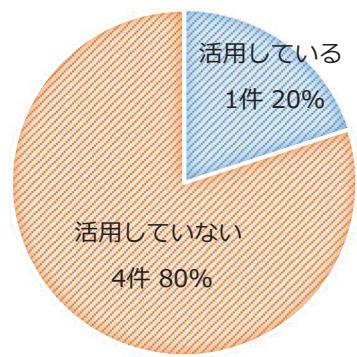
■シートを活用していない理由

- ・知らなかつた。(2)
- ・活用する場面がなかつた。今後活用する予定。

医療と介護の連絡シートについて

■「医療と介護の連絡シート」の活用状況

医療と介護の連絡シートを「活用していない」が80%と最も多く、次いで「活用している」が20%と通所介護事業所ではほとんど活用していないことが分かった。



■シートを活用して良かった点

- ・連絡先が分かりやすく記載してあるため、すぐに対応できる。

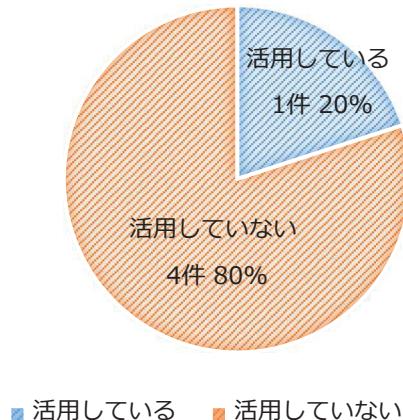
■シートを活用していない理由

- ・知らなかった。(2)
- ・別の様式を使っている。
- ・活用する場面がなかった。今後活用したい。

くまもとメディカルネットワークについて

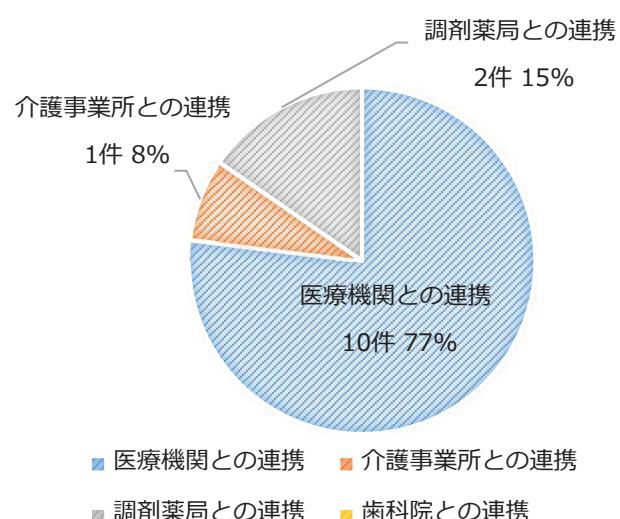
■くまもとメディカルネットワークの活用状況

くまもとメディカルネットワークを「活用していない」が56%と最も多く、次いで「活用している」が44%と調剤薬局ではほとんどが活用していないことが分かった。



■くまもとメディカルネットワークの活用方法

活用方法としては、「医療機関との連携」が50%」(1件)「介護事業所との連携」が50%(1件)となっている。



■くまもとメディカルネットワークを活用してみての意見

- ・主治医、薬局、事業所などと情報共有できるのは助かる。

■くまもとメディカルネットワークを活用していない理由

- ・活用する場面がない。
- ・使用していない。
- ・担当ケアマネジャーより情報をもらえる。(2)

その他について

■後継者不足や人材不足に対する取り組みなど

- ・職員の繋がりで新規採用職員を探したり、嘱託職員として退職職員の再雇用。
- ・募集を行っているが応募がない。

■医療と介護の連携について、日頃感じていることなど

- ・医療と介護の連携は利用者の在宅生活を支えるために必要なこと。今後インフラの発展があればさらなる連携が可能。
- ・事業所が直接医療機関と連携をとる事はない。
- ・十分な情報は得られている。